

会 議 録

会議の名称	西東京市介護保険運営協議会第1回会議
開催日時	令和3年11月12日（月曜日） 午後7時から午後8時20分まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎5階 502・503 会議室
出席者	<p>（出席委員） 渡邊委員長、梶川副委員長、中山委員、伊集院委員、伊藤委員、内田（美）委員、横山委員、尾林委員、小柳委員、瀬ノ田委員、篠宮委員、小口委員、新井委員、内田（孝）委員、齋藤委員、富樫委員</p> <p>（欠席委員） 浅野委員</p> <p>（事務局） 健康福祉部長、高齢者支援課長、介護保険担当課長、以下9人</p>
議 題	<p>（1） 第7期計画までの取組について</p> <p>（2） 第8期計画の概要</p> <p>（3） その他</p>
会議資料 の 名 称	<p>（事前送付資料）</p> <p>資料1 西東京市介護保険運営協議会委員名簿</p> <p>資料2 西東京市介護保険条例及び同施行規則（抜粋）</p> <p>資料3 西東京市介護保険運営協議会会議傍聴取扱要領</p> <p>資料4 介護保険運営協議会日程について（案）</p> <p>資料5 西東京市の取組等</p> <p>資料6 西東京市高齢者保健福祉計画介護保険事業計画（第8期）概要版 （当日配布資料）</p> <p>資料7 西東京市の現況</p> <p>資料8 認定者数と利用者数の推移 ・西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第8期）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

1 開会

2 正副委員長選出

3 会議の運営等について

4 議題

(1) 第7期計画までの取組について

○事務局：

第7期計画までの取組について、資料5に沿って説明

○委員

意見なし

(2) 第8期計画の概要

○事務局：

第7期計画までの取組について、資料6、資料7、資料8及び西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第8期）に沿って説明。

○委員：

資料7が見やすかった。資料8について、東京都等との比較のデータはあるのか。

○事務局：

そういった情報は現在持ち合わせがない。今後調べていきたい。

○委員：

要支援の方が少なく、要介護1・2の方が多き理由は何かあるのか。全国や東京都、他市との比較を行ったり、要支援の方の介護保険サービスの利用率が低い点等を考えたりする必要があるのでないか。

○事務局：

1つの要因として85歳以上の人口が多いことがある。この層は一般的に要介護認定を受け率が高いためである。また、必要な介護保険サービスを受けられるような取組も考えていく必要がある。

○委員：

例えば、退院時に要介護認定申請を薦められたがそのまま介護保険サービスを使わないケース等サービスの利用率が低い要因は色々あると思われる。

○委員：

要支援、要介護というカテゴリーでサービスを提供しているのではないが、サロンにつながる人は高齢化が進んでいる印象がある。

○委員：

要支援の状態で介護保険サービスをしっかり受けていれば、要介護になるスピードはゆっくりとなるのではないか。きちんとサービスを継続的に利用した方が要介護になる率が少なくなるといったデータがあるとしたら、利用率が上がるアピールを市民にしたら良いと考える。

○委員：

要支援の方を元気にしていく方法もあるのではないか。最初から介護保険サービスを使う前提ではない要支援の方も存在するという考え方もあるのではないか。

○委員長：

もしかしたら、介護保険外のフレイル予防などの事業に参加するなど、関連するサービスの利用者も多いのかもしれない。

○委員：

要支援の方について、介護保険給付額が要介護の方と比べて半額以下ということで、居宅介護支援事業所が受けたがらないこともあり、なかなか契約に結び付いていない現状があるかもしれない。

○委員：

現在、市内在住の75歳以上の高齢者を対象とした生活状況調査を3年に1度実施している。その中で介護認定を受けていない人は、普段から体操等何かしらしている人であると思われる。

○委員：

要支援2と要介護1の違いについて、もう少し説明すると分かるのではないか。

○事務局：

要支援2と要介護1について基準時間は同じだが、状態の不安定さ又は認知機能の低下が

ある場合は、要介護1で、それ以外は要支援2となる。

○委員：

要支援になったら、きちんと十分なサービスを受けて今の状態をキープするという認識でも良いのか。

○委員：

例えば、御家族が心配されて認定を受けたが、本人が大丈夫ということで、介護保険サービスを勧められても利用しないという方がいる。介護保険サービスを使わなくても地域参加し、普段の生活にプラスアルファで力を落とさないようにするという考え方もある。一方で、コロナ禍で虚弱の方が増えている印象があり、そこからサービス利用につながるという流れもある。1つのやり方だけでなく、幅広く考えて取り組んでいきたいと思う。

○委員：

病院でも在宅復帰の支援を行っている。要支援の方は介護保険サービスの利用自体に抵抗ある方もいる。そのような方には介護保険外サービス等のその方に適したものが求められる。皆がきちんと選択できるように資源の情報提供をしっかりとっていく必要があると感じている。

○委員：

ケアマネジャーがいろいろとサービスを勧めるが、経済的に厳しいという面もある。利用者ができることも介護保険サービスとして行ってしまうことで、利用者の持っている力を削いでしまうということに留意しなければならない。

○委員長：

要支援の方が介護保険サービスを受けていないのではないかということについて、介護保険外でのサービスの利用や地域の何かのイベント等に参加していることもあると考えられる。

○委員：

地域包括支援センターがいろいろと取り組んで頑張っていると感じている。介護予防の取組が非常に進んでいるので、もっと広く伝えられたら良いと思う。

○委員長：

今後の参考となる意見をたくさんいただいた。コロナの影響も注視する必要もあり、そういった実態を共有して、皆さんのお知恵をお借りしながら検討を進めてまいりたい。

(3) その他

○事務局：

第2回会議の日程について説明

5 閉会